

OPEN TALKS!

オープントークス

2018 3
MARCH

Copyright©2018 OTS CORPORATION All Right reserved. Vol.099 発行：2018年3月 発行人：田中★ユウイチロウ

特集

CSR／補助犬支援活動

臨海センター広報委員

■補助犬ってなあに？

あまりなじみのない言葉かもしれませんが。目の不自由な人をサポートする盲導犬は実際に見たり、話を聞いたりする機会が多いかと思います。そんな盲導犬も補助犬のなかの一つなんです。

盲導犬／交差点や段差で止まったり、障害物をよけて歩くなど、目の不自由な人が安全に、快適に道を歩くお手伝いをします。

介助犬／身体の不自由な人のために、落とした物を拾う、ドアの開閉、物を持ってくるなど、日常生活の手助けをしてくれます。

聴導犬／耳の不自由な方にタッチをするなど色々な動作を使って、チャイムやFAX着信音等を知らせて生活をサポートします。

■なぜ補助犬支援を選んだのか？



▲総務の迫田さん。
補助犬支援活動に感銘を受け、OTS内の支援活動を積極的に行う推進役！でも実は猫派とのこと。

従業員が関心を持ち、家族や友人に話すことで認知度が上がり、理解されていくこと。社会貢献とは規模や額ではない事にスポットを当て、その中からまずは補助犬への理解や認知に協力する事を選びました。盲導犬は一定の認知度があるものの、他の補助犬は認知度が低く、それゆえに頭数も少ないのが現状です。補助犬を育成し、引き取って犬を最後まで面倒をみる協会団体の方々に感銘し、継続的なOTSの社会貢献の第一歩として介助犬、聴導犬への協賛を始めました。この活動については、OTS社内だけでなく業界団体にも案内しており、認知度アップに期待しています。(迫田)



■日本には何頭の補助犬がいるの？ 調べてびっくり！たったの1,087頭！！

厚生労働省調べ（H30.1.1現在）

補助犬の中でも知名度の高い盲導犬ですら全国で950頭しか活動していません。都道府県別では東京で一番多くの盲導犬が活躍していますが、それでもわずか97頭。

話やドラマではよく聞く盲導犬ですが、確かに実際に盲導犬を街で見かけることはほぼないに等しいですね。

日本の聴覚障がい者は約38万人。そのなかで盲導犬を必要としている方は3,000人いるといわれています。

先進国の中でも普及の遅れている日本、補助犬普及を取り巻く環境はどうなっているのでしょうか。

■法律は整備したけれども…(´・ω・`)

平成14年に身体障害者補助犬法が施行されました。

1. 補助犬を育成する団体には良質な補助犬の育成と指導を義務付ける。
2. ユーザー（補助犬使用者）には補助犬の適切な行動と健康の管理を義務付ける。
3. 公共施設・交通機関、スーパー・飲食店・ホテル・病院や職場などで、補助犬同伴の受け入れを義務付ける。

この法律をきっかけに補助犬は社会全体で受入れるべきものという共通認識となりました。

しかし実際に補助犬を育成している育成協会は活動資金の大部分を寄付金に頼っており、どの協会も資金不足という現状だそうです。

OTSは募金という形で補助犬の育成を支援しています。

■盲導犬に出会ったら！

お触りは厳禁 ×××

街で見かける盲導犬は視覚障がい者の安全を守る大事なお仕事中。可愛いのはわかりますが声をかけたり触ったりしないでください。

信号の色を伝えてあげましょう

とっても賢い盲導犬ですが、信号の色はわからないのです>< 信号待ちをしている盲導犬使用者をみかけたら「今、赤ですよ」「青に変わりましたよ」と一声を掛けてください。

道に迷っている様子だったら

「何かお手伝いしましょうか。」と声を掛けてください。道案内（手引き）を頼まれたら、盲導犬がいる方とは反対側に並んで立ち、肩か肘をつかんでいただき、盲導犬使用者の半歩前を歩きましょう。方向指示は「あっち」「こっち」ではなく「右・左」と説明をするととっても親切ですね♪



◀各センターに啓蒙ポスターと募金箱を設置。募金はすべて公益財団法人 日本補助犬協会に寄付しています。またパート社員も含めた全従業員に本活動の趣旨を説明して回るなど、社を挙げて支援活動に取り組んでいます。



■取材後記

平成25年4月1日より常勤労働者50人以上の企業では身体障害者補助犬の受け入れが義務化されています。すでに日本の企業でも盲導犬を連れて出社されている方もいます。アパレルや食品企業では、きちんとお手入れされているとはいえ犬の毛や臭いの問題もあり、難しい課題ではあると思いますが、障害のある方の仕事の選択肢が増えていくことはこれからの社会のあり方に大きな意味を持つと感じました。

